英国ヘルスケア通信

日本クラブ

Vol.47　2025年6月

英国の高齢化問題について

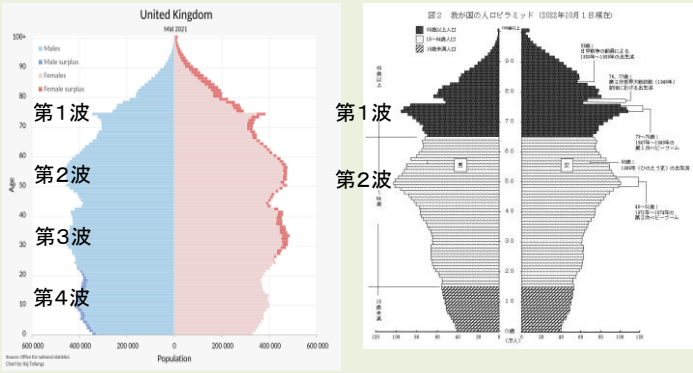
ー日本との比較の視点から考えるー

去る5月17日英国日本人会主催による第12回欧州日本人ネットワーク大会が開催され高齢化問題をテーマに参加者の間で積極的な意見交換が行われました。

英国にお住まいの在留邦人の皆様におかれましては駐在や留学など期限付きの滞在あるいは永住を前提としてお住まいの方などこちらに居住する理由は様々であると思われますが、日英両国においても高齢化に伴うさまざまな問題は避けて通れない社会的関心事となっております。これから老年期を迎える皆様にとっては自分事として、親や祖父母がその年代を迎える若い皆様にとっても家族の問題として高齢化にまつわる様々な問題について日英両国の現状や今後の見通しを比較してみようと思います。

下の表は英国における高齢化率（65歳以上の人口割合）の推移と今後の予測をしめしたものです。2026年でやっと20％を超えてきますがこの数字は米国などの移民国家と同等の水準です。一方日本においては2024年時点ですでに高齢化率は29.4％に達しており、これは英国の2046年の予測をはるかに上回る水準です。高齢化率世界一の超高齢社会日本の面目躍如たる所以ですが、決して喜ばしくはないことも事実です。

高齢化の進展は少子化もあいまって台湾や韓国、中国などではさらに急速で今世紀後半にはこれらの国々の高齢化が日本のそれを上回るのではないかという予想もされています。



英国（２０２１年）　　日本（２０２２年）

図１：年齢別人口構成（人口ピラミッド）

上の図１は年齢別の人口構成を示したいわゆる人口ピラミッドです。御覧のように日本と英国ではまるで別物であることがよくわかると思います。英国においては現在75歳を超えてきたいわゆる戦後の団塊の世代（一番上のピーク）を筆頭に第２波（団塊ジュニア）第３波、やや心細いですが第４波までの人口の波（ボーナス）が人口を構成しており、これらの若年労働人口が高齢世代の医療や介護を支える、いわゆる世代間扶助のモデル構築が望めます。

一方、日本においてはバブル崩壊の余波をまともに受けた就職氷河期に社会に出た団塊ジュニアの世代は経済的に不安定で次のボーナスを生み出すことができませんでした。この事実が日本においては世代間扶助を事実上困難にしており、英国では現時点において就労年代（16歳～64歳）と高齢人口（65歳以上）の比率が約4対１（4人の若者が一人の高齢者を支える騎馬戦型）なのに対して、日本では今世紀中葉には1対1（肩車型）になることが予想されています。英国においても晩婚化、少子化の傾向は大いにみられるのですが、移民の流入が労働人口を下支えしこの影響を大きく緩和していることは明白な事実であります。

	1996	2006	2016	2026	2036	2046
英国全人口	58.2m	60.8m	65.6m	69.8m	73.4m	76.3m
65歳以上人口	9.3m	9.7m	11.8m	14.3m	17.5m	18.8m
高齢化率	15.9%	15.9%	18.0%	20.5%	23.9%	24.7%

表１：英国における高齢化率（65歳以上の人口割合）の推移と今後の予測　日本29.3%(2024)

発行：　日本クラブ医療サービス委員会　　原稿：ジャパングリーンメディカルセンター　　鈴木　裕介（すずき　ゆうすけ）医師
日本クラブ　TEL: 020 7921 9490　Email: jimukyoku@nipponclub.co.uk　HP: nipponclub.co.uk

高齢者が医療、介護、年金などの社会保障の分野において若い世代にできるだけ頼らずに生活できることがどの国においても望まれます。そのためには高齢者の労働参加、年金支給開始年齢の延長など両国とも同じ課題を抱えているのですが、そもそも高齢者自身が心身ともに元気で暮らせることが最も肝要です。そのため日英ともに政策的に力を入れているのが予防の重視です。つまり病気や要介護状態になる前にいかに効果的な介入ができるかが鍵であり、結果的に健康寿命と実際の寿命の差でその成果を計ることもできます。表２でおわかりのように、日本においては平均寿命と平均健康寿命の差が英国より男性で1.3年、女性で1年短く、長寿による選択効果（長生きする人はそもそも元気）があるとは言え重要な事実です。

	男性		女性	
	平均健康寿命	平均寿命	平均健康寿命	平均寿命
日本	72.6歳（世界1位）	81.5歳（世界2位）	75.5歳（世界1位）	86.9歳（世界1位）
英国	69.6歳（世界26位）	79.8歳（世界19位）	70.6歳（世界34位）	83.0歳（世界30位）

表２：健康寿命と実際の寿命の差

表３に日英の高齢化と医療・介護制度の簡単な比較をしてあります。英国においては若年人口の減少が日本ほど顕著でない分、高齢化の進展は比較的緩やかであり政策的にも日本ほどの「待ったなし」感はないようです。そうは言っても、コロナ禍で問題になったように医療の需給バランスひっ迫で割を食うのは弱い立場の高齢者であり、自助を基本とする介護においても現行の制度下では今後問題が表面化することは明白です。

項目	日本	英国
高齢化率	約29%（世界一）	約20%（先進国平均）
高齢化の進行	非常に急速	比較的ゆるやか
平均寿命	約85歳（女性）	約83歳（女性）
年金制度	国民皆年金（厚生・国民年金）	国民年金 職域年金（任意）
医療制度	国民皆保険（保険料＋税）	NHS（税金ベース）
家族構成	高齢者の単身世帯が多い	単身化進行中
介護	介護保険制度あり(2000～)	介護は自己負担が基本 地方自治体の補助あり（資力テストあり）

表３：日英の高齢化と医療・介護制度の比較

日本においては医療・介護ともに社会保険の仕組みにより支えられています。医療において75歳以上は「後期高齢者医療制度」の枠組みの範囲内で運営されますが、診療上若年者と特段の差別化がはかられているわけではありません。

英国における医療は民間保険によるプライベート医療サービスの利用を除けばほぼ100%税金で運用される国民保健サービス（NHS）にその大部分を依存していることは皆さんよくご存じかと思われます。医療は自分たちの払った税金で運用される「公共財」であるとの基本的考え方が根強く、その分、国民やメディアの厳しい目が日常的に向けられています。高齢者のための医療もNHSが提供するサービスの一部として特段の差別化が図られているわけではありません。ただし医療・介護の規範となる英国国立医療技術評価機構（NICE）によって高齢者に特化した指針（表４）が作成されており、その内容は日本の老年医学における中核となる指針と内容を共有しており、疾患よりも高齢者に好発する症候を中心としたものとなっております。

発行：　日本クラブ医療サービス委員会　　原稿：ジャパングリーンメディカルセンター　　鈴木　裕介（すずき　ゆうすけ）　医師
日本クラブ　TEL: 020 7921 9490　Email: jimukyoku@nipponclub.co.uk　HP:　nipponclub.co.uk

NHS（国民保健サービス）と高齢者医療

高齢者医療における６つの診療ガイドライン
＊Dementia（認知症）
＊Falls and Fractures（転倒と骨折）
＊Mental Health（精神衛生）
＊Urinary Incontinence in woman（女性の尿失禁）
＊Drugs and prescribing（薬剤と処方）
＊Advance care planning, multimorbidity and winter death
（アドバンスケアプラニング、多病、冬場の健康対策）

表４：UKにおける高齢者医療に特化した指針

日本における介護については2000年より施行された介護保険により全国一律同じ仕組みで運用されていますが、保険者は各市町村であり運用状況（サービス利用申請者と保険料収入、補助金としての税収）により月々の保険料には地域差があります。在英歴の長い方から「長らく日本を離れていても帰国してから介護保険のサービスを受けられるのだろうか」というご質問を受けることがありますが、介護保険は年金と違って加入年数や掛け金総額によって受けられるサービスが規定されるわけではありませんので住民票があれば認定を受けてサービスを受給することが可能です。一方、英国における介護の基本的考え方は「自助」です。つまり介護は家庭内の出来事であり、「もし介護が必要になったらサービスを自分で購入するか家族や友人のサポートに頼ってください。それでも困るようなら手持ちの資産に応じて足りない分は公的扶助に頼ってください」というようなもので、何だか前世紀の日本を彷彿とさせます。（表５）

日本では医療施設（病院や有床診療所）が増大する介護需要の肩代わりをするというおよそあるべき姿としてほど遠い状況が続いた後、2000年介護保険の導入に至りました。

日英の医療介護制度の違いと特徴

日本の特徴

•高齢化率世界一で医療介護政策待ったなし
•年金・医療・介護すべてに国家的な制度が整っているが、制度維持のための財政負担が重い
•地域格差を埋め合わせる仕組み（地域包括ケア）模索中

英国の特徴

•高齢化は進んでいるが、まだ制度設計に時間的余裕あり
•医療は基本的に無料（ただし財源は税）介護は自助が基本
•移民政策で若年労働力を補う方針が強い
•介護は日本に比べて、私的年金や個人責任の色が強い
•社会階層の不平等の受け皿としてのチャリティーの貢献

表５：日英の医療介護制度の比較

英国では日本のように社会保険方式を導入するという動きは今のところないようですが、家族の在り方が変化する中で介護問題をどうするべきかは、国内でも長年議論されてきており、国民の総意として納得できる落としどころを模索し続けているようですが、「責任と公平性」の両立という点において結論に至るには道まだ険しという印象を持っています。

このあたりに関しては次回以降、また今後の課題を含めて話題提供できればと思います。

総合診療担当　鈴木裕介

参考：

表１：Office for National Statistics（UK）

表２：世界保健機構WHO2021年版統計

表４：Comprehensive assessment when older people are in hospital improves their chances of getting home and living independently

発行：　日本クラブ医療サービス委員会　　原稿：ジャパングリーンメディカルセンター　　鈴木　裕介（すずき　ゆうすけ）　医師
日本クラブ　TEL: 020 7921 9490　Email: jimukyoku@nipponclub.co.uk　HP:　nipponclub.co.uk